



みなさん、こんにちは。JICA 海外協力隊員の天野です。今回はパラオの公共事業局で活動している協力隊員、野口さんから話を聞きました。野口さんは、道路や橋梁などの道路関連施設の維持管理の助言と指導をしています。

天野：野口さんが JICA の海外協力隊に応募された動機は何ですか。

野口：私が高校生の時、隊員と現地の子供達の笑顔が写っていた JICA の応募チラシを見ました。その笑顔が素晴らしく、強い印象を受けました。この時「いつか海外で活動ができれば・・・」という気持ちを持っていました。そして知り合いのボランティアの話聞いて、協力隊に応募しました。この時はケニアでした。いまから 20 年ぐらい前のことです。



天野：ケニアではどのような仕事をされたのですか。

野口：下水道工事の測量・設計の仕方や建築工事の助言、道路の維持管理の助言です。また、交流を図るために地元の小学生たちに、そろばんも教えました。

天野：今回のパラオへ応募された動機は何ですか。

野口：定年間近となって役所人生を振り返ると、JICA ボランティアの経験は公私共に有意義であったと一番に思います。いま一度、役所での経験を生かして…恩返しとはいかないまでも、何かできれば。また、もう少し、いろいろな勉強がしたくて応募しました。

天野：野口さんの仕事を教えてください。

野口：道路や橋梁、附属施設が老朽化して、適切な管理や向上が求められています。そこで、道路関連施設の維持管理の方法や安全管理に関する助言・提案や指導を行っています。現在、次のことをしています。



道路の補修と点検



コンクリートを叩いて点検

- ①道路や橋梁施設の維持管理計画を作成するために情報を収集しています。
- ②管理基準のマニュアルを策定しています。
- ③定期的な巡回と豪雨後の巡回を行っています。

天野：先般、私は橋や道路を調査する作業に同行しました。いまはドローンを使ったビデオ撮影もするのでですね。

野口：調査が困難な箇所や危険な箇所、全体を把握するために撮影して記録保存します。例えば橋の下が海の場合や、桁下が高い場合があります。ドローンは橋の下を飛んで、裏側から老朽化や損傷の状況を調べることもできます。

また人が行けない奥地や、地滑りがある箇所の状況も調査できます。もちろん近接できる場合は、実際にコンクリートの亀裂を見たり叩いたりして調べます。



道路周辺の草刈り 整備作業



道路わきの斜面 崩落現場



橋の裏側 点検



橋の側面 点検

(注)この4枚の写真は、ドローンで撮影した動画から作りました。



写真左
小型のドローン

写真右
ドローンの組み立て 準備



橋の側面や下側の亀裂など、細かい部分の撮影では望遠鏡で確認しながらドローンを操縦します。



天野：最後に、日本のみなさんにメッセージをお願いします。

野口：これをご覧の皆さんの中で、「協力隊の活動に興味があるけど・・・云々」と思っている方がいらっしゃいましたら、募集説明会などに足を運んでみられたら如何でしょうか。

開発途上国の生活や活動では、嬉しいこと、予期しないことや辛いこと含め、いろいろなことが起こります。そのときは自分の技術や知識、体験、ほかの隊員の協力を通して試行錯誤したり創意工夫したりします。そして多くのことが学べます。たくさんの人との繋がりもできます。

それは貴重な機会であり、財産になると思いますので是非、協力隊に参加してみませんか。